

OKAYA ECHO

岡谷エコロータリークラブ RI2600 地区諏訪グループ

2025-2026年度 会長 宮坂好史 幹事 宮澤弘樹

●永遠のテーマ **地球のために何かをしたい**

ROTARY CLUB OF OKAYA ECHO WEEKLY

vol. 1479 2025.10.27

卓話『経営・ビジネス視点で見る農業の課題と可能性』

八ヶ岳農業大学 校長 丸山侑佑様 担当:プログラム委員会

◆会長挨拶

10月も今週で終わり 週末が11月に入ります。先週から一気に寒くなりましたが、今週もあさっては最低気温氷点下の予報であり、一段と寒さがつります。でも11月は気温が例年より高めとの予報が出ていて、何とも天候不順な処です。一日の寒暖差が10℃以上もあるので皆様くれぐれも健康管理、大事にしてください。

それでは今日のゲストを紹介します。八ヶ岳農業大学 校長 丸山侑佑様です。八ヶ岳ガーデンプロジェクトや先週は収穫祭が開催されて、今注目の農業大学校のお話が楽しみです。担当委員会はプログラム委員会です。先程 丸山様からは農場での産物を頂戴し ありがとうございます。後程ラッキー NOでお出ししますのでお楽しみにして下さい。

おとといの金曜日日出隆幸さんのお別れの会がマリオさんの会場でしめやかに行われました。エコーからも大勢の方が参列され、式においては木下会員の心打つ弔辞もありました。また会員一同で弔電も打たせて頂きました。遺影の写真が実にいい写真で早出さんの人柄そのもの、本当に惜しい人を亡くしたと痛感した処です。

翌日の土曜日は今年度第4回目の自然の玉手箱が行われました。今回は諏訪の歴史を巡るということで仏法紹隆寺・桑原城跡・高島城を巡った処です。熊の出没がちょっと心配される処でしたが河西明さんが熊鈴や撃退スプレーをしっかりと用意されて 結果事なきを得ました。仏法紹隆寺にある不動明王像（運慶作の可能性もあるので将来国宝かも）が見れてよかったです。今回は11月15日 地区大会前日になりますが、会員の方であればご参加頂きたいと思います。

そして昨日の日曜日はロータリー諏訪グループによるポリオ撲滅チャリティゴルフコンペが盛大に開催されました。生憎の雨模様の天気でしたが全体で48名、エコー6名が参加して自慢の腕を競いました。エコーは団体では4位となり、また小野さんが3位と健闘しました。ポリオへの寄付は20万ほど集まったとのことです。

先週は金、土、日とロータリーに関わってのこれらの行事等が続いて、目一杯時間を過ぎた処です。それでは今日もよろしくお祈りします。

◆ゲスト 八ヶ岳農業大学 校長 丸山侑佑様

◆幹事報告

- ・10月24日(金)日出隆幸さんのお別れの会が行われました
- ・10月25日(土)自然の玉手箱、翌26日(日)諏訪グループポリオ撲滅チャリティゴルフコンペ(6名参加)

- ・前回例会にてご協力いただいたポリオ撲滅チャリティの合計金額は19000円になりました
- ・11月16日(土)地区大会出欠最終確認
- ・来週11月3日(月)法定休日 次回例会は11月10日 例会終了後 第9回理事会

◆委員会・同好会報告

《社会奉仕委員会》

- ・10月25日 自然の玉手箱「仏法紹隆寺・桑原城・高島城をめぐる諏訪の歴史めぐり」報告
- 参加 児童22名 先生4名 会員8名

《刈学》

- ・11月9日 秋の刈学研修会 塩嶺カントリークラブ
- 7:40集合 会費4000円

◆卓話

「経営・ビジネス視点で見る農業の課題と可能性」
丸山侑佑様

《プロフィール》

経営学修士 ISO30414 (人的資本開示) プロフェッショナル

2024年6月、公益財団法人農村更生協会が運営する八ヶ岳農業大学校 (旧・八ヶ岳中央農業実践大学校) の理事に就任し、同年10月専務理事に就任。2025年4月より同大学校校長に就任。

世界に誇る八ヶ岳で「農業×観光 (アグリツーリズム)」をテーマに新たな価値を生み出す10ヘクタール100万株の広大な花畑「八ヶ岳ガーデンプロジェクト」を6/14オープンさせた。

自己紹介



ポート株式会社 (東証グロース上場) の取締役副社長を務める傍ら、多種多様な産業におけるスタートアップ等の社外取締役や顧問を歴任。

2024年6月に当校理事に就任し、経営改善や組織づくりを指揮、2024年10月からは専務理事として当校の経営全般の責任をもち、2025年4月より、38歳の若さで当校17代校長に就任し、農業経営者の排出に向け、職員や実習生とともに現場で指揮をとる。実習生とは各現場で意見交換はもちろんのこと、農業経営論や特別講義を担当。現場課題からくるテクノロジーを活用した生産性向上プロジェクトも実習生と始動予定。

《「経営・ビジネス視点で見る農業の課題と可能性」》
現代の農業は、単なる第一次産業の枠を超え、経済・生態系・社会構造が交錯する複雑なシステムとして機能

Rotary



2025-2026年度 RIテーマ

よいことの

ために

手を取りあおう

UNITE
FOR
GOOD

■ 岡谷エコロータリークラブ事務局

〒394-0081 長野県岡谷市長地権現町3-2-45(マリオ内)
TEL/FAX 0266-26-7600 E-mail:ri2600@okaya-echo.jp
http://www.okayaecho-rotary.club

している。

気候変動の激化や資材価格の高騰、さらにはサプライチェーンの多様化といった要因が同時に進行し、これまでの「生産中心型」モデルではもはや対応しきれない時代に入っている。

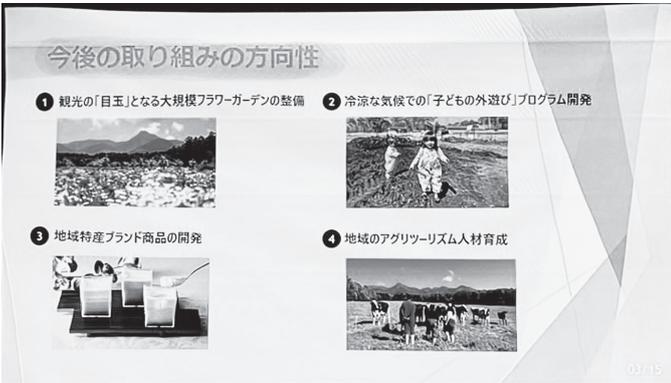
経営の前提そのものが変わった今、農業はもはや「作る」だけの仕事ではなく、戦略的な意思決定を通じて価値を設計し、社会的課題を解決するビジネスへと進化する必要がある。



農業経営の難しさは、その構造的条件に起因する。第一に、天候や病害、政策、市場価格といった外的要因が経営全体を左右する。これらは互いに連鎖し、単独ではなく複合的な危機をもたらす。第二に、農業のPDCAサイクルを稼働させる期間の長さである。生物学的な諸所の制約により、結果の検証には年単位の時間を要するため、環境変化のスピードとの間に深刻なタイムラグが生じる。第三に、多くの農産物は市場で差別化されにくく、生産者は価格決定権を持たないプライステイカーになりやすい。この状況では経営の裁量が奪われ、コスト削減一辺倒の経営になりがちである。

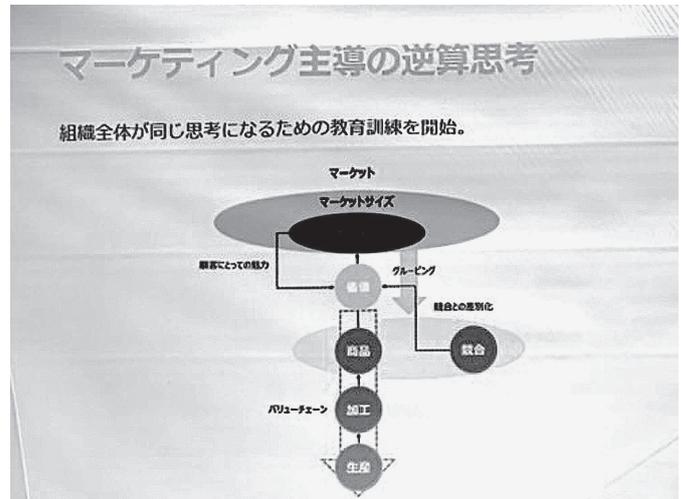
さらに、土地や施設などの非流動的資産が多いため、戦略転換が遅れやすく、経営リスクの固定化を招く。これらの要素が重なり、農業は他産業とは異なる「複雑かつ不確実な経営システム」となっている。

こうした環境下で、従来の二つの専門性——すなわち「農業の専門家」と「経営の専門家」——はいずれも限界に直面している。



生産技術に特化した農業者は、品質向上に執着するあまり顧客のニーズを見失うときもある。どれほど優れた作物を育てても、消費者の体験価値や購買行動の変化を読み取れなければ、成果は限定的である。また、経験と勘に依存した判断は、再現性や拡張性を欠き、組織的な学習を妨げる。さらに、労働集約的であるにもかかわらず、人的資本マネジメントが軽視されることが多い。作業の意義や目的が共有されない環境では、モチベーションが下がり、離職率が上昇し、結果として生産性が失われる。

一方で、経営知識だけを持つ者は、農業を工場のように捉え、現場の複雑適応性を過小評価しがちである。短期的なROIや定型的な財務モデルを重視する発想では、季節性や高い固定費構造を持つ農業に適応できない。現



場に存在する「経験知」と経営データとの間に深い断絶があるため、経営者はしばしば解像度の低い意思決定を強いられ、投資や改革に慎重になりすぎる傾向が生まれる。この二つの分断を乗り越えるためには、より実践的で本質的な「アグリ・マネジメント」が必要である。これは、農業を単なる生産活動ではなく、価値創造のプロセスとして再構築する考え方である。その本質は、生産量を増やすことではなく、「何を、誰に、どのように届けるか」を設計する戦略的思考にある。

市場の構造、消費者行動、地域資源、ブランド価値などを総合的に捉え、供給主導から需要起点へと発想を転換することが求められる。特にマーケティングドリブンに事業を推進するにあたっては、消費者を知り、消費者目線で価値を創造し、生産現場のアタリマエに変化を起こしていく必要もある。ただ最大の課題は組織全体が消費者志向に変化できるかである。



※講師丸山様から頂いたお土産（産物）



ラッキーナンバー・ニコニコBOX・出席報告

- ラッキー No.90 佐藤一樹会員
No.76 宮坂邦彦会員
(講師丸山様から頂いたお土産)
- ニコニコBOX 22件 35,000円

- 出席報告
会員数 49名 出席 25名 欠席 24名
出席率 52.08% 前々回訂正 72.9%

ニコニコするメッセージをお寄せ下さい

今週のプログラム 11月10日(月) PM0:30
マリオ/卓話 宮坂清 八剣神社宮司 環境保全

次週のプログラム 11月16日(日) AM9:00
松本 キッセイ文化ホール/地区大会 役員・クラブ奉仕